

伊良湖休暇村公園（いらご さららパーク）について

1. 伊良湖休暇村公園施設の概要

- ・ 昭和38年、県と名鉄（株）の共同により休暇村を誘致し、昭和41年12月に開業（全国で17番目の開業）
- ・ 名鉄（株）が所有する土地に、愛知県が園地、キャンプ場、及び一般財団法人休暇村協会が宿泊施設、体育館、運動場等を整備（全体面積 約49ha）
- ・ 県の施設管理は、休暇村協会に委託（平成18年度から指定管理）
- ・ 所在地：田原市中山町大松上1

2. 再整備の概要について

- ・ かつてこの地域にあった「砂丘とオアシス」を再生し、地域固有の海浜性植物を復元する、自然の再生をテーマとした整備であり、渥美半島地域の生態系ネットワークの拠点を目指すものです。（整備面積 約5ha）
- ・ 事業費の総額は約2.7億円で、国の自然環境整備交付金（国45/100）及び田原市負担金が含まれています。
- ・ 平成25年度から事業を開始し、平成29年度に完了する予定です。
- ・ 「花」「砂」「水」の3つの広場から成る「観光エリア」、希少な海浜性植物の展示・保全等を目的とした「希少種エリア」、NPO・学校・企業などの環境活動・環境学習に活用していただく「環境活動エリア」を整備し、順次供用を開始して参ります。
- ・ 平成26年10月24日に、「観光エリア」のプールがあった場所にあたる約1haの部分について、供用を開始しました。



いらご さららパーク（整備イメージ）



3. 愛称について（公募）

- ・ 愛称 「いらご さららパーク」
- ・ 選定理由 「さらら」という言葉が「砂丘とオアシス（湧水）の再生」というテーマを象徴する「砂」の感触や「水」の音を的確に表現し、ひらがな表記は誰でも呼びやすく、親しみやすいことから選定しました。
- ・ 最優秀者 榎田 伸也 様（奈良県、男性、40歳）
- ・ 募集期間 平成26年6月9日から7月31日まで
- ・ 応募総数 1,396点

4. 供用開始について

- ・ 供用箇所 「いらご さららパーク」の観光エリアの一部約1ha（花の広場、砂の広場、水の広場）
- ・ 供用開始日 平成26年10月24日（金）

<参考>

○ オープン式典について

- ・ 日時 平成26年10月24日（金）午前11時から11時30分まで
- ・ 開催場所 伊良湖休暇村公園内宿泊施設「休暇村伊良湖 レストラン菜花」
- ・ 内容 愛称最優秀者の表彰、テープカット及び知事と地元小学生等による「花の広場」への植栽などを実施

○ リニューアルイベントについて

- ・ 日時 平成26年10月25日（土）及び26日（日）に実施
- ・ 開催場所 伊良湖休暇村公園 「いらご さららパーク」

* 上記について、主催：愛知県、田原市 協力：休暇村伊良湖

伊良湖休暇村公園整備事業 ～全国初となる砂丘とオアシスの再生～



海浜植生の再生

外来種の駆除

- 園内に多くの外来種が繁茂、生育している。
- 刈り取っても根や種子が土中に残るため効果的な駆除が困難。

現地多い外来種
オオキンケイギク コマツヨイグサ バウヤギク

2つの目的を同時に達成するため 天地返しを実施

1. 上層掘削、仮置き
2. 下層掘削、仮置き
3. 上層埋め戻し
4. 下層埋め戻し
5. 天地返し完了後

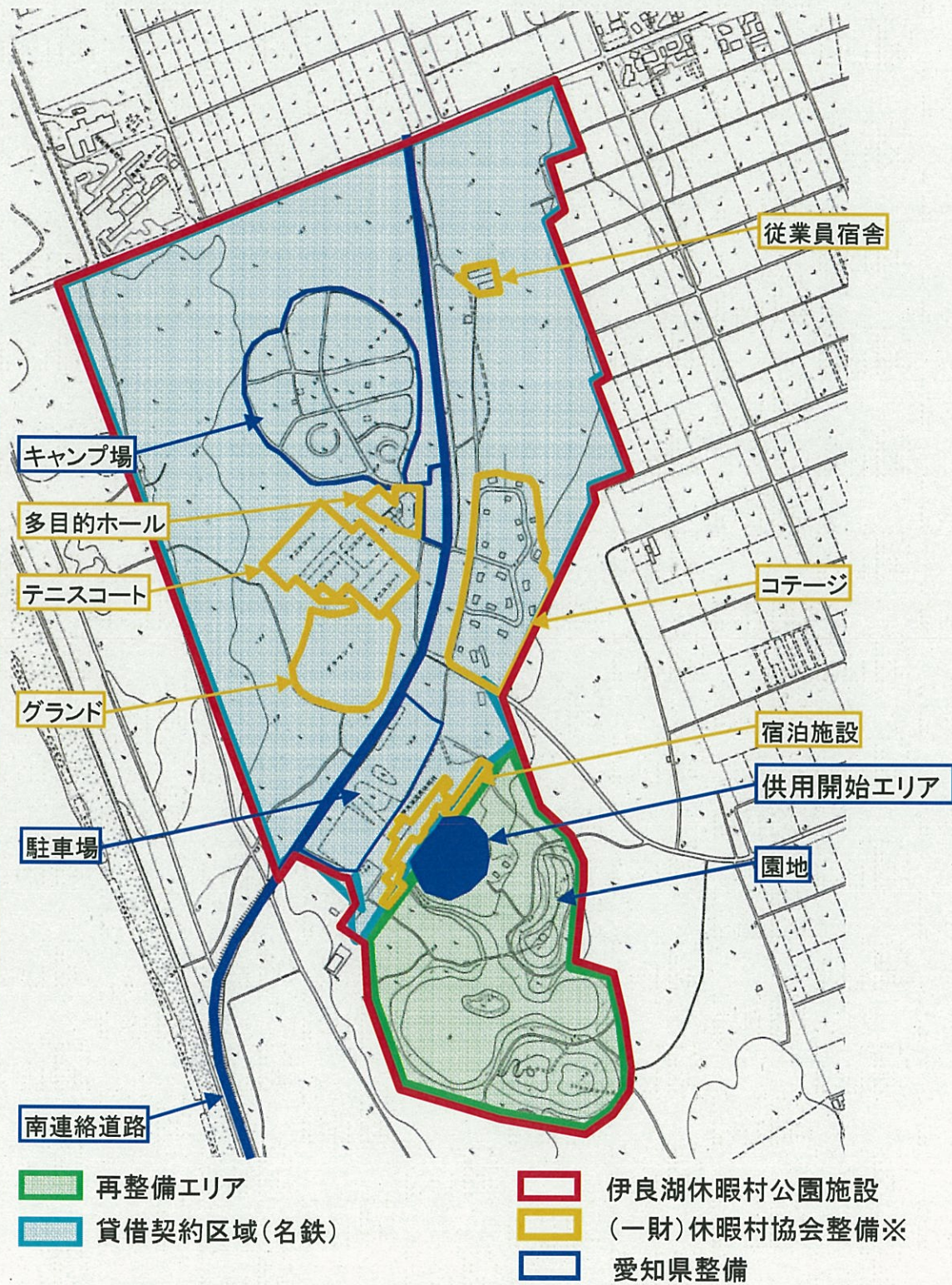
■ 外来種抑制
■ 在来海浜植物再生

在来海浜植物の再生

- 他地域からの移植は遺伝子の攪乱を招く恐れがある。
- 下層には在来海浜植物の種子が休眠している可能性がある。

自然に生える海浜植物
コウボウムギ ケカモノハシ ハマエンドウ
ハマビルガオ ハマボウフウ

■ 埋土種子
結実後、発芽せずに休眠状態で土壌中に蓄積する種子。ここで目撃したコウボウムギ、ケカモノハシ、ハマエンドウ、ハマビルガオ、ハマボウフウは、1年以上の休眠後にも発芽能力を有している研究例がある。



※一般財団法人休暇村協会(旧 国民休暇村協会)
 国立公園及び国定公園において、低廉、清潔な宿泊施設を中心とする利用施設の整備促進のため、全国的規模の事業体として、昭和36年に設立。全国に37の施設がある。